『出雲弥生の森博物館研究紀要』
第２集，１-12頁，2012年３月

# 西谷２号墓の復元整備

三原一将

## 1. はじめに

島根県出雲市大津町に所在する西谷墳墓群は弥生時代に築かれた大型の四隅突出型墳丘墓が集中する遺跡で，2000年（平成12）３月30日に国の史跡に指定された。

以後，出雲市は四隅突出型墳丘墓の保存修理工事を行いながら史跡公園としての整備を進め，2010年（平成22）３月に西谷墳墓群史跡公園「出雲弥生の森」が完成し，４月29日には隣接地にガイダンス施設となる出雲弥生の森博物館も開館した。

この史跡西谷墳墓群の整備事業の一環で西谷２号墓（以下２号墓という）の復元整備を行ったが，本論ではこの復元内容，特に墳丘の復元を中心に述べたい。

なお，２号墓復元整備の実施設計[1]は2008年度（平成20）に，工事[2]は翌2009年度（平成21）に行った。

復元整備前の２号墓は，墳丘の大部分が削り取られている状況であった。西谷墳墓群の周辺では良質な土が採取できるため，かつては大津瓦の土として利用されてきた。２号墓の土も陶土として採取された結果，墳丘の中央から北側にかけて大きく削り取られ，南端がかろうじて残っている状態となっていた。

## 2. ２号墓の調査と復元

西谷墳墓群では国の指定を受ける前に，詳細を把握するための発掘調査が行われている。

２号墓は1980年（昭和55）に出雲考古学研究会によって発見され報告（出雲考古学研究会1980）がなされた。それ以降，島根大学考古学研究室や出雲市教育委員会によって測量調査や発掘調査が実施されてきた。これらの調査成果の概要をまとめると表１に示すとおりとなる。

２号墓の復元整備前の時点では，2002年（平成14）と2004年（平成16）に行われた発掘調査に基づき作成された復元案（坂本2006）が，それまでの調査成果を集約した最新のものであった。

一方，２号墓の具体的な復元方針や整備内容については，2008年（平成20）５月に設置された西

**表１　２号墓の調査と主な成果**

| 調査年 | 調査主体 | 調査内容 | ２号墓に関する主な成果 | 文献 |
|---|---|---|---|---|
| 1980 | 出雲考古学研究会 | 墳丘測量 | ・分布調査により２号墓を発見。<br>・墳丘測量図を作成。<br>・南突出部付近で石列の一部を確認。<br>・土器の採集。<br>・規模を東西方向で突出部を含めて25m，除いて15m，高さ２mとする。 | 出雲考古学研究会1980 |
| 1988～1992 | 島根大学考古学研究室 | 墳丘測量 | ・周辺を含めた墳丘測量図の作成。 | 藤永2000 |
| 1998～1999 | 出雲市教育委員会 | トレンチによる規模確認 | ・次のとおり規模を推定。<br>方形部規模：南北約35m，東西約24m<br>突出部を含む規模：南北42m以上，東西30m以上<br>墳頂平坦面：南北21m，東西11m<br>高さ：3.1～3.7m<br>・２段の立石・敷石を確認。<br>・復元図を作成。 | 藤永2000 |
| 2002～2005 | 出雲市教育委員会<br>('04年は島根大学も参加) | トレンチによる範囲確認 | ・規模を南北36m×東西約24m，高さ3.5mと推定。<br>（突出部を含めると約50m）<br>・残丘断面で第１主体を確認。<br>・墳丘中央でガラスの腕輪と管玉，水銀朱塊を発見，中心主体があったことを裏付ける。<br>・吉備の特殊壺や器台を含む多数の土器を発見。<br>・復元図を作成。 | 坂本ほか2006 |

谷２号墓整備･活用検討委員会（委員長：渡辺貞幸，以下委員会という）で検討が重ねられた。

この委員会では，専門家，有識者，地元代表など様々な立場の委員がそれぞれの観点で意見を出した。これを事務局が集約し，提案・修正を繰り返した結果，次のとおり２号墓整備の方針が順次決まっていった。

① 墳丘が削平されている箇所に展示室を建設し，全体を盛土で覆って貼石も施し，墳丘復元を行う。

② 墳丘，埋葬施設などを実物大で見せ，体感させるための整備とし，史跡を正しく理解できる外観を重視すること。

③ ２号墓の中心主体と第１主体を元位置に近い場所でそれぞれ復元展示すること。その際，３号墓の資料を用いる場合は，見学者に誤解が無いようにすること。

④ 展示スペースの出入口は階段とスロープの２箇所とする。墳頂部には安全柵を設置する。

⑤ 中心主体はミラービジョンを用いた演出とする。発掘状況を再現し，見学者の操作で復元状況へと切り替わるものとする。

## 3.墳丘の復元

以上の整備方針に基づき実施設計を進めたのであるが，ここではまず，墳丘の復元について述べたい。

墳丘の復元は,『西谷墳墓群』（坂本ほか2006）で示された復元案（以下2006復元案という）をベースに行った。2006復元案は既往の調査成果も踏まえたものであり，２号墓の復元整備前の時点では最新のものであった。

よって，これに必要な箇所については修正を加えることで整備復元図の作成を行った。以下，墳丘各所の復元について説明する。

**①墳裾外縁（突出部を除く墳丘外縁）**

これまでの範囲確認を目的としたトレンチ調査では２号墓方形部の各辺において，部分的ではあるが墳裾外縁に配された石が見つかっていた。2006復元案ではこれらをつなぎ，または，延長することにより墳裾外縁ラインを復元している。遺存している配石に基づく復元であり，示された突出部を除く墳丘規模が東西23.5m，南北35m であることはほぼ間違いない。よって，今回の整備復元図においてもこれをそのまま用いることとした。

**②墳裾の配石構造**

既往の調査では，墳丘の北側や南側で２段の立石・敷石が確認されており，特に北側は遺存状態が良かった。この発掘成果に基づき，今回の整備復元では墳丘外縁に２段の立石・敷石を巡らせることとした。

**③突出部**

これまでの調査で２号墓の突出部については，その先端を確認できたものはなかった。2006復元案では，西谷墳墓群で唯一突出部先端が確認できていた４号墓の南東突出部を参考にして突出部の長さを推定復元している。

しかし，２号墓は細尾根上に築かれており，突出部の長さはこの地形にかなり制約を受けることが想定された。つまり，突出部が長くなると丘陵斜面に差し掛かることから，2006復元案で示された長さの突出部を作り出すことは困難だと想定した。

このため，２号墓の突出部では最も残存状態の良い配石が確認されていた北東突出部の痕跡から，あまり長くならない箇所に先端が来ると想定して，突出部の長さを推定した。そして，この突出部の長さを他の突出部にも摘要することで４箇所の突出部を復元した。

なお，突出部の上面は３号墓の発掘調査成果に基づき，馬の背状に丸みを持たせた復元としている。

**④高さ**

墳丘の高さの手掛かりとなるのは，残丘部の

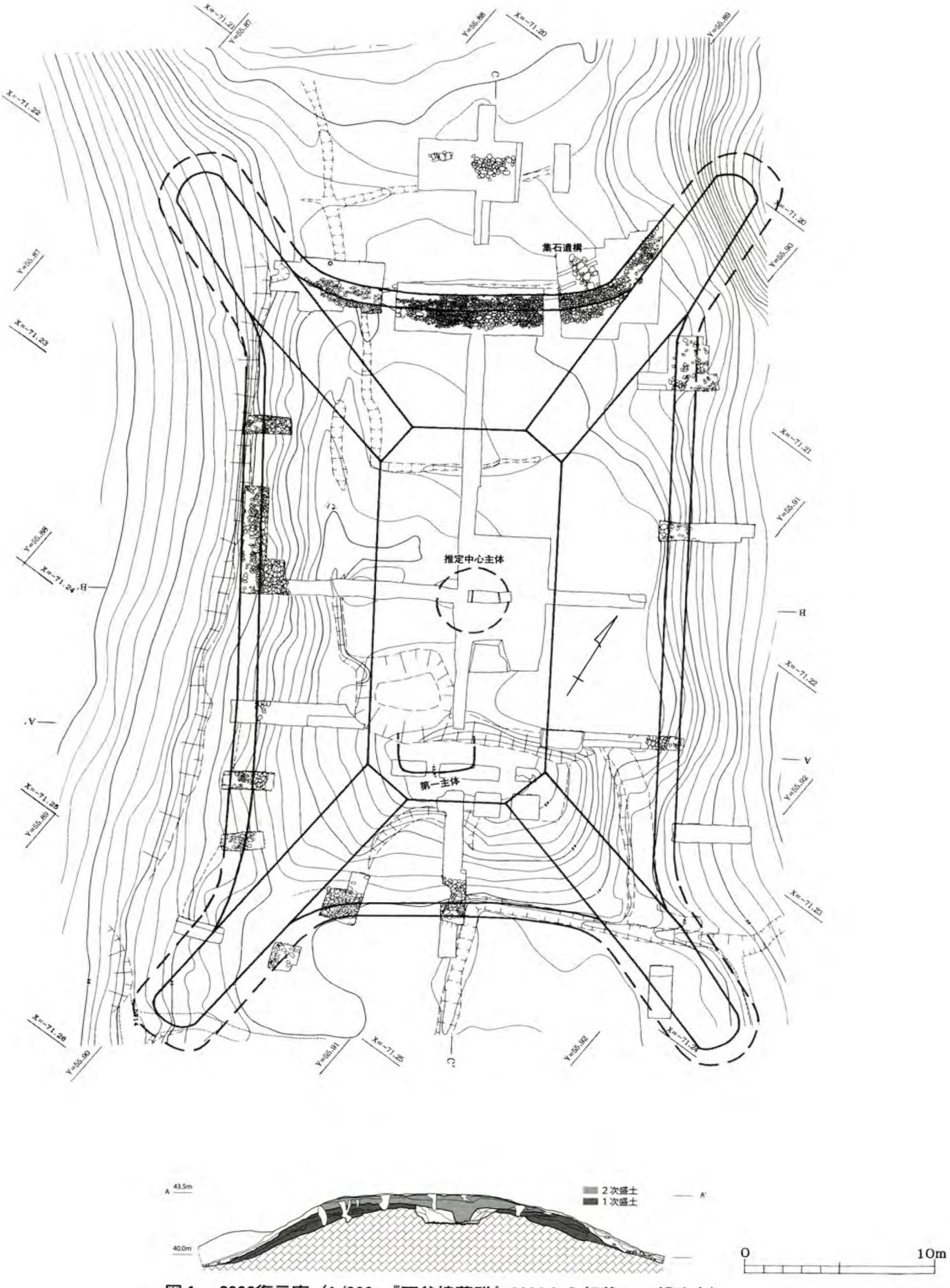



**図1　2006復元案（1/300，『西谷墳墓群』2006から転載，一部改変）**

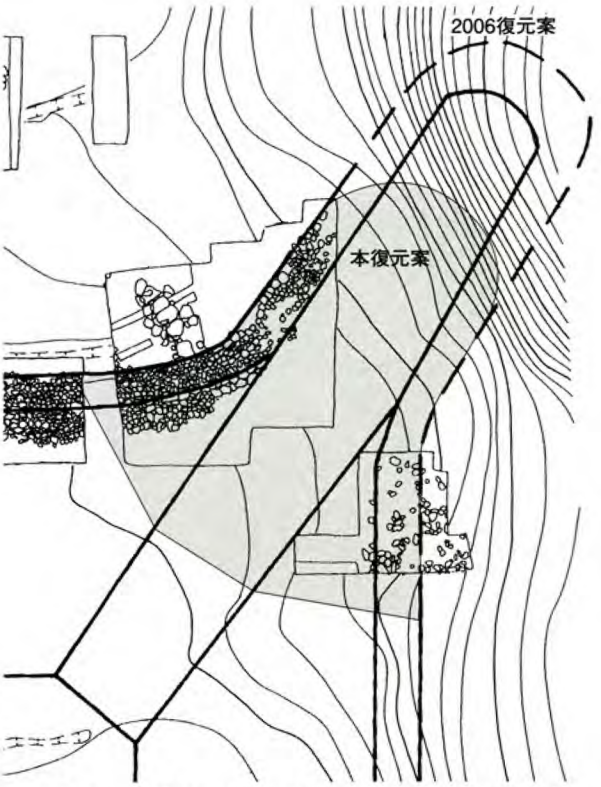



**図２　２号墓北東突出部の復元状況（1/200）**

高さである。残丘部のピークは標高43.47mであり，また，この残丘の断面で確認された埋葬施設である第１主体の墓坑底の標高が41.76mであることから，その深さは約1.7mである。３号墓の第１主体の墓坑の深さが墳頂平坦面から約1.4mと推定されることを勘案すると，残丘部のピークは２号墓築造時の墳頂部の高さとあまり変わらないと考えられる。

よって，今回の整備復元においては，築造当時の２号墓の墳頂部の標高を43.5mと推定した。

また，墳裾外縁の標高は北側39.7m，南側40.4m，東側39.3m，西側39.8mをはかることから，墳丘の高さは3.1～4.2mとなる。

**⑤墳丘斜面の斜度**

墳丘斜面の斜度については，発掘調査で作成された各トレンチの断面図を基に検討を行った。

その結果，２号墓方形部における各斜面の斜度は，遺存状態が悪く検討が困難であった東側を除き，北側28～38度，南側28～37度，西側33度前後と推定した。

墳丘斜面の斜度は墳頂平坦部の規模や形状に関係することから，最終的にはこれらも勘案して，北側33度，南側34度，東側37度，西側33度とした。

**⑥墳頂平坦部の規模**

2006復元案では墳頂平坦部は東西9.5m，南北21mの規模で復元されている。２号墓の墳丘規模からすると，３号墓や９号墓との比較においてやや狭い印象を受ける。

よって今回の整備復元においては，想定される墳丘斜面の斜度の許す範囲でこれを若干緩和する事とし，東西11m，南北23.5mの規模として復元した。

**⑦墳丘の貼石**

発掘調査で確認された貼石の大きさは10～40cm程度のものが使われ，各場所でバラツキがある。しかし，傾向として裾部付近では上方と比較して大きな石が使われているようである。この傾向は作業をする上でも合理的であることから，今回の復元においてもこの傾向を再現することとした。

なお，本来西谷墳墓群の貼石は，神戸川や斐伊川の上流で採集できるものを使っているのであるが，今回の復元では同じものを入手することができなかった。よって，山口県産の石を取り寄せたが，２号墓で実際に貼られていたものを参考に20～40cmの白っぽい円礫または亜円礫で，かつ，石種は玄武岩，流紋岩，安山岩など火山岩を指定した。

最終的に２号墓の貼石は施工面積865m$^2$，約25,000個に及んだ。

**⑧集石遺構**

２号墓の北側では墳丘外縁にほぼ接する位置で集石遺構が見つかっている。下部に掘り込みはなく出土遺物もないため，遺構の性格は不明である。しかし，２号墓に伴う遺構と考えられていることから，今回は併せて復元することとした。

**⑨埋葬施設**

２号墓では少なくとも二つの埋葬施設があったと考えられている。ひとつは南の残丘断面で

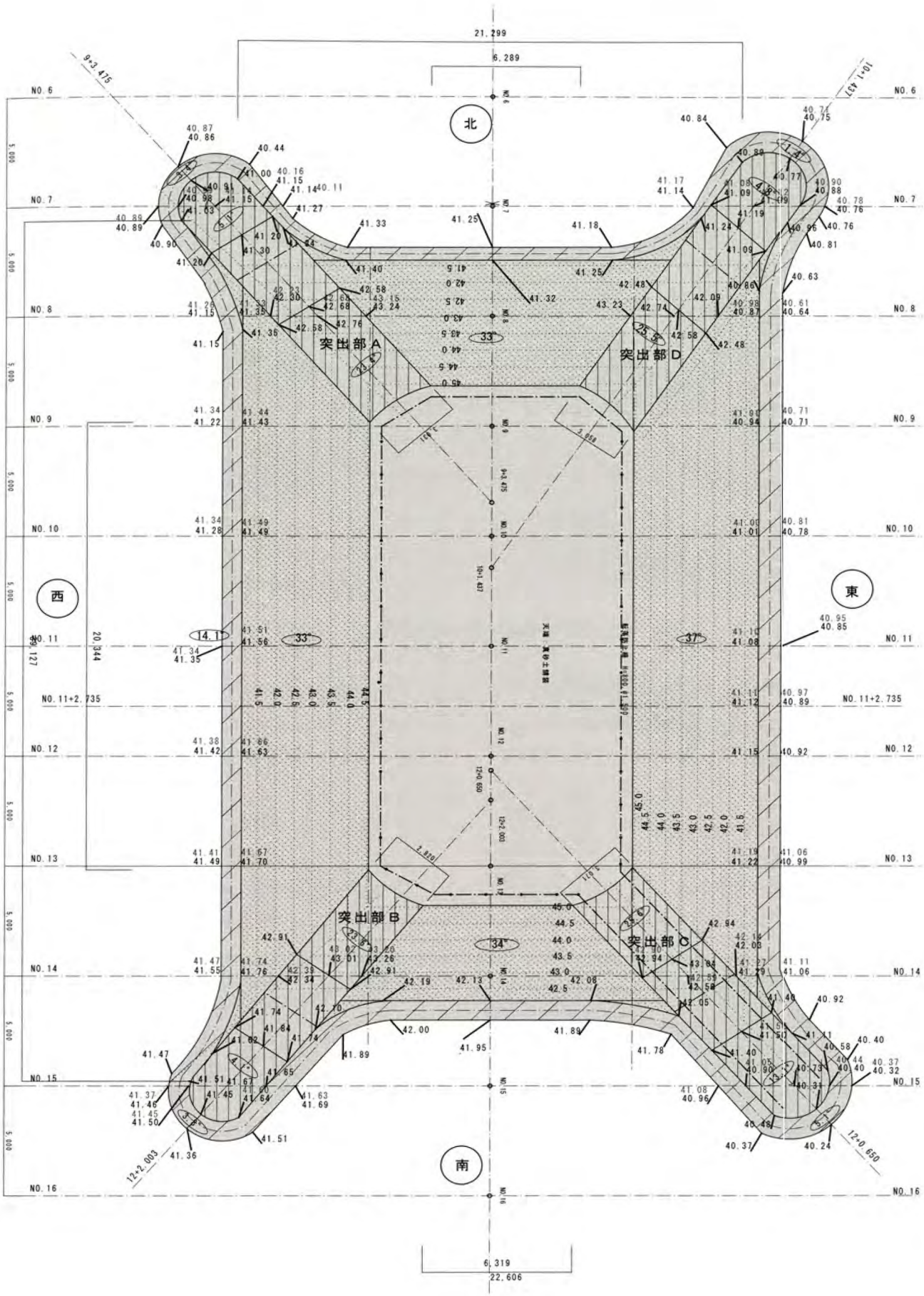
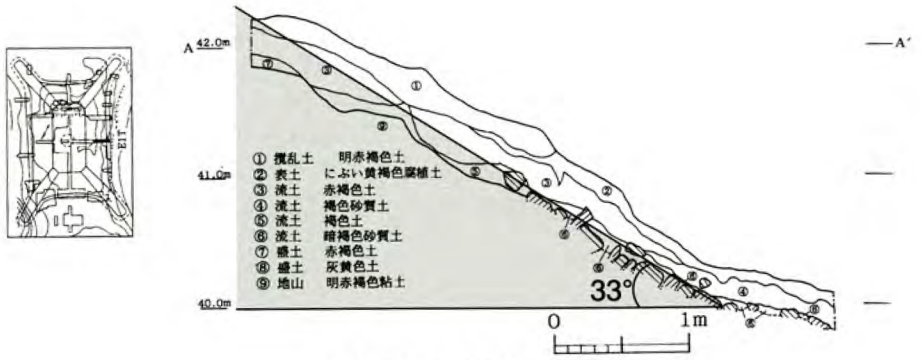
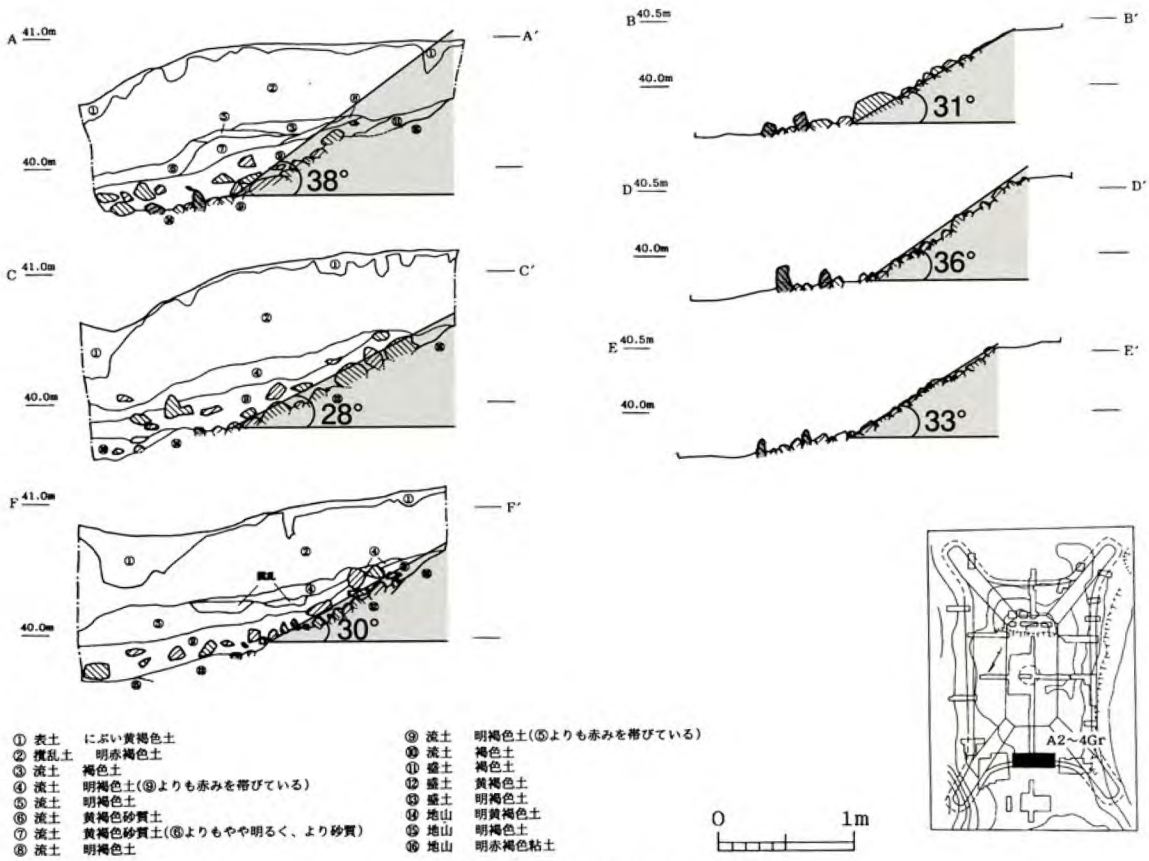


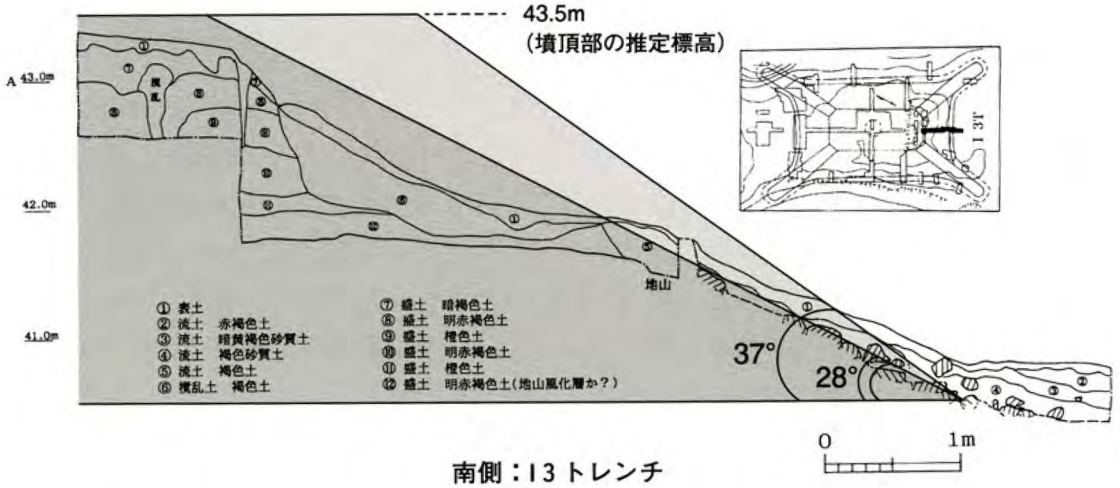

**図 3　2 号墓墳丘整備復元平面図（1/250）**




西側：E1 トレンチ




北側：A2～A4 グリッド




南側：I3 トレンチ

図 4　2 号墓墳丘断面図の斜度（1/60,『西谷墳墓群』2006掲載図を基に作成）

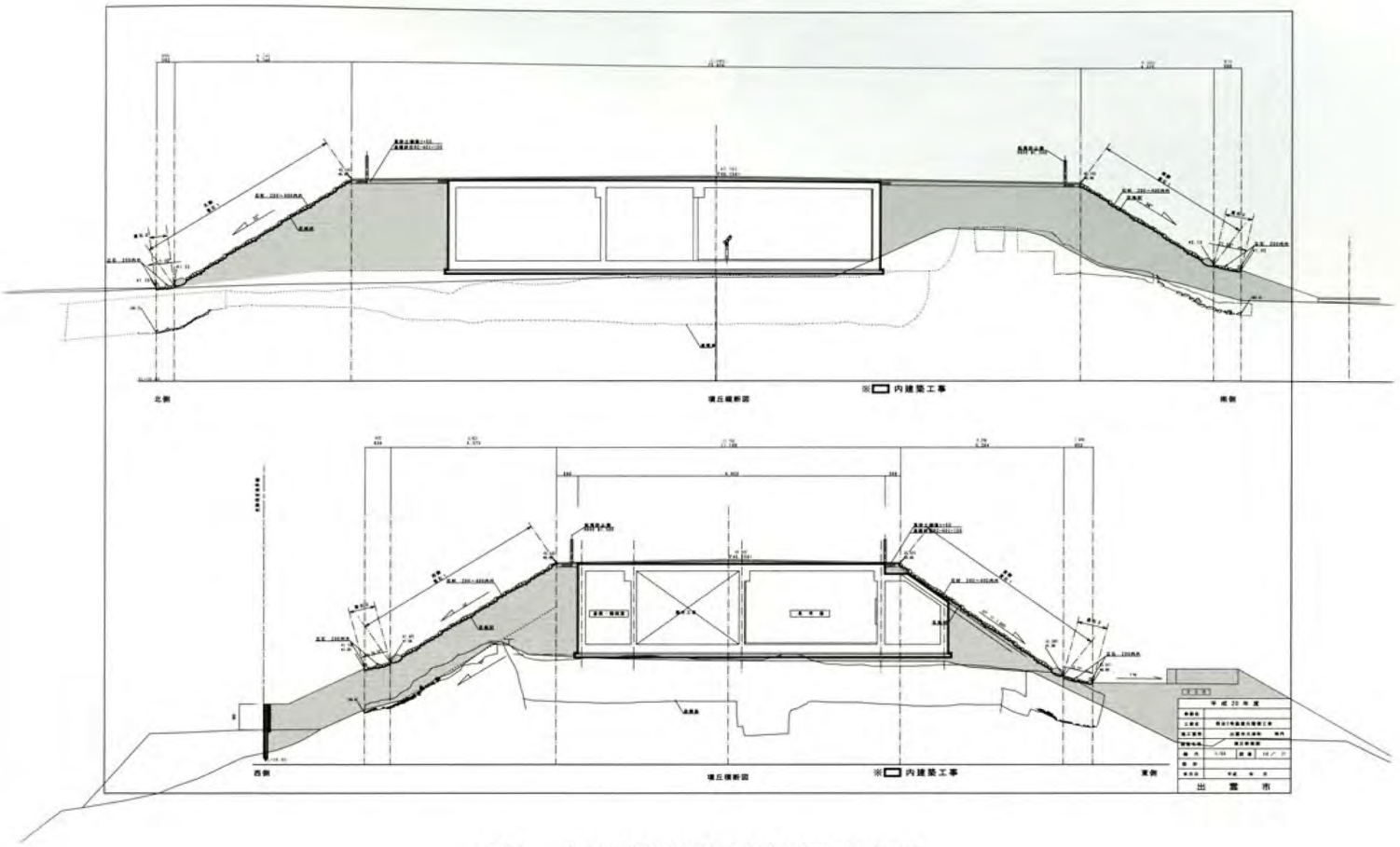


**図５　２号墓整備復元縦横断図（1/250）**

確認された第１主体，もうひとつは墳丘中央で水銀朱やガラス腕輪のほか，まとまった数の土器片が出土したことからその存在が推定されている中心主体である。

今回の復元では，２号墓内部に設けた展示室でこれらの復元模型を設置することとした。

まず第１主体であるが，発掘調査で確認された土層断面を等倍模型で復元し展示することとした。この模型の作成にあたっては発掘調査で実測された土層断面図を基に，FRP 素材のパネルに土色を彩色して仕上げた。彩色にあたっては見学者に分かりやすくするため，実際の色よりも強調した。また，展示室外のコンクリート壁にも墳丘土層の続きを描きパネルの土層表現と連続させることで，14m に及び土層断面を示すことができた。

なお，実際の土層面は土層パネルの2.5m 奥で，１m 低い位置にある。

一方，中心主体は完全に破壊されていたため，埋葬主体があったと想定される位置に３号墓第１主体の発掘状況を模型で再現し，そこにミラービジョンによって木棺に納められた埋葬人物像が次第に浮かびあがる展示装置を設置することとした。

この際，主体部の配置については墳丘の長軸に対して直交配置とした[3]が，頭位を西にした理由については，見学者にとって副葬品が手前に配されて見やすいという理由からであり，特に根拠があるものではない。

**⑩墳丘の保護**

今回の復元整備にあたっては遺構の保護が大前提である。当然，残存する遺構を毀損してはいけないので，実施設計は施工に際して遺構を傷つけないものとする必要があった。

このため，墳丘が削り取られた場所に展示室を設け，残丘とともに全体を盛土で覆って施工することで，墳丘の保護と復元を両立させる設計とした。よって整備後の２号墓は，全体が本来の標高より約1.5m 高い位置での復元となっている。

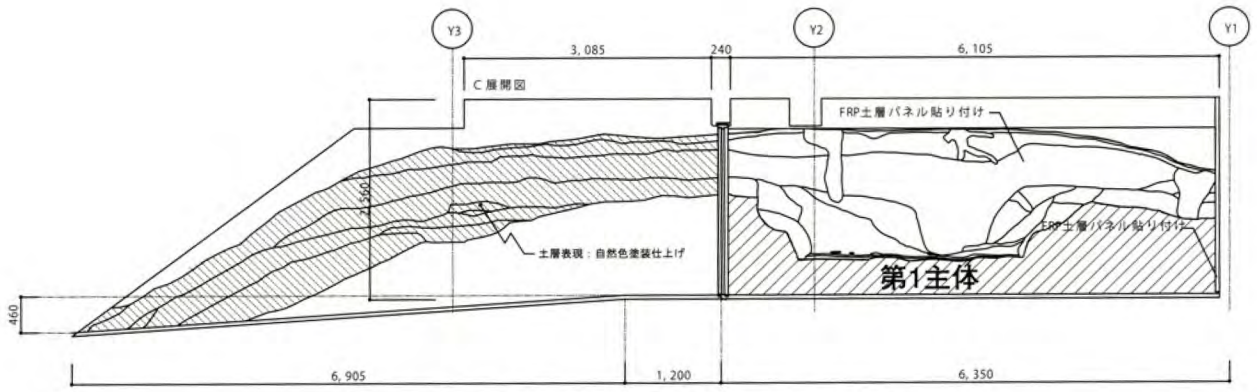



**図6　2号墓第1主体土層断面パネル立図面（1/100）**

## 4. 2号墓復元と周辺工事の実施

2号墓の復元工事施工にあたっては周辺の整備工事と併せて実施したので，これについて述べたい。

2号墓本体と周辺の整備を目的とした工事は，西谷2号墓復元整備工事ほか3工事で行った。

先にも述べたように2号墓の整備は，内部に展示室を設けて墳丘全体を復元する内容となっていたため，工事を土木工事，建築工事，電気工事，展示工事に分けて実施する必要があった。

よって，それぞれ西谷2号墓復元整備工事，西谷2号墓建築工事，西谷2号墓電気設備工事，西谷2号墓展示工事[4]として発注した。

なお，これら一連の整備工事は，2009年（平成21）10月10日の西谷2号墓復元整備工事の着手をもって始まり，2010年（平成22年）3月26日の西谷2号墓展示工事の完了をもって終了した。

西谷2号墓復元整備工事では，2号墓の墳丘復元と周辺整備を行った。

墳丘復元は，墳丘が削平された箇所に建築工事で展示室となるコンクリートの躯体を建設した後に本格的に進めた。

まず，2号墓の残丘とコンクリート躯体を覆うように盛土を行った。そして，本来の墳丘の形状に整形しつつ，順次貼石を施していった。

周辺整備では排水溝，休養施設，園路広場，学習施設などを設置した。また，墳丘の西側にはシラカシ，アラカシ，ウバメガシを植栽したほか，園路沿いには張芝を施した。

排水溝については，2号墓を取り囲むようにU字溝を設置する予定であったが，地山掘削を最小限に留めるべく，西側と北側の一部で設置を見送った。

休養施設としては，2号墓東に造成した187m²の広場に，木製ベンチを4基設置し，学習施設としては，墳丘東に解説板が取り付けられるように，コンクリート基礎を埋設した。

また，3号墓まで取り付けられている既設の園路をこの整備で1号墓まで延長した。この際，展示室にアプローチする箇所は，車椅子に対応させるためスロープとした。また，2号墓東の広場と既設の園路とを接続させるため，階段園路も取り付けた。

西谷2号墓建築工事では，鉄筋コンクリート造平屋建て，建築面積134.3m²，延床面積126.0m²の展示室を建築した。

内部には見学室85.0m²，模型展示室10.5m²，機械室30.5m²を設けた。出入口は東側の2所で，北寄りは階段，南寄りはスロープとした。

また，壁と天井についてはコンクリート打放しとし，見学室の床については園路と同じ真砂土舗装で仕上げた。

西谷2号墓電気設備工事では，2号墓見学室内の照明器具の取り付けや，電気ケーブルの設置などを行った。

特に，見学室内に監視モニターの取り付けを行ったことから，このケーブルを引くため，既

整備前の２号墓

墳丘盛土

建築工事

墳丘貼石

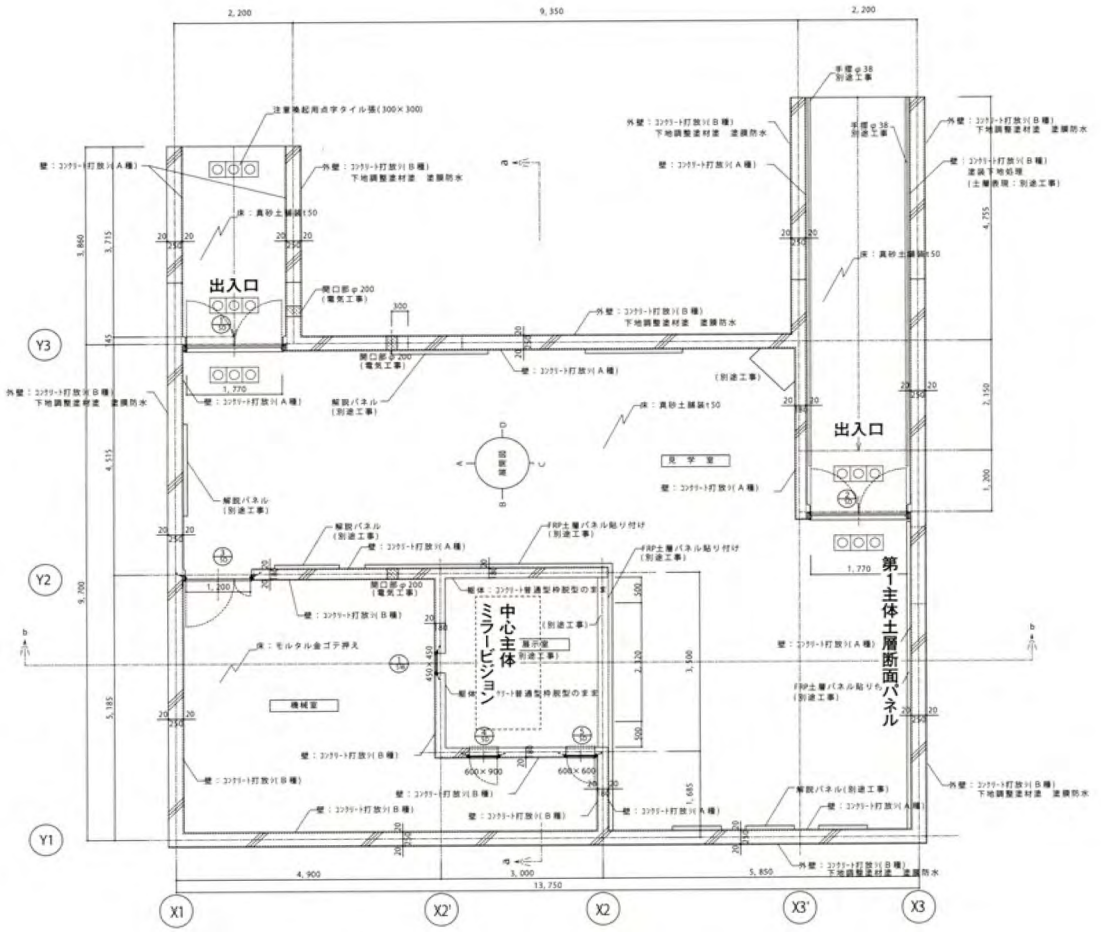
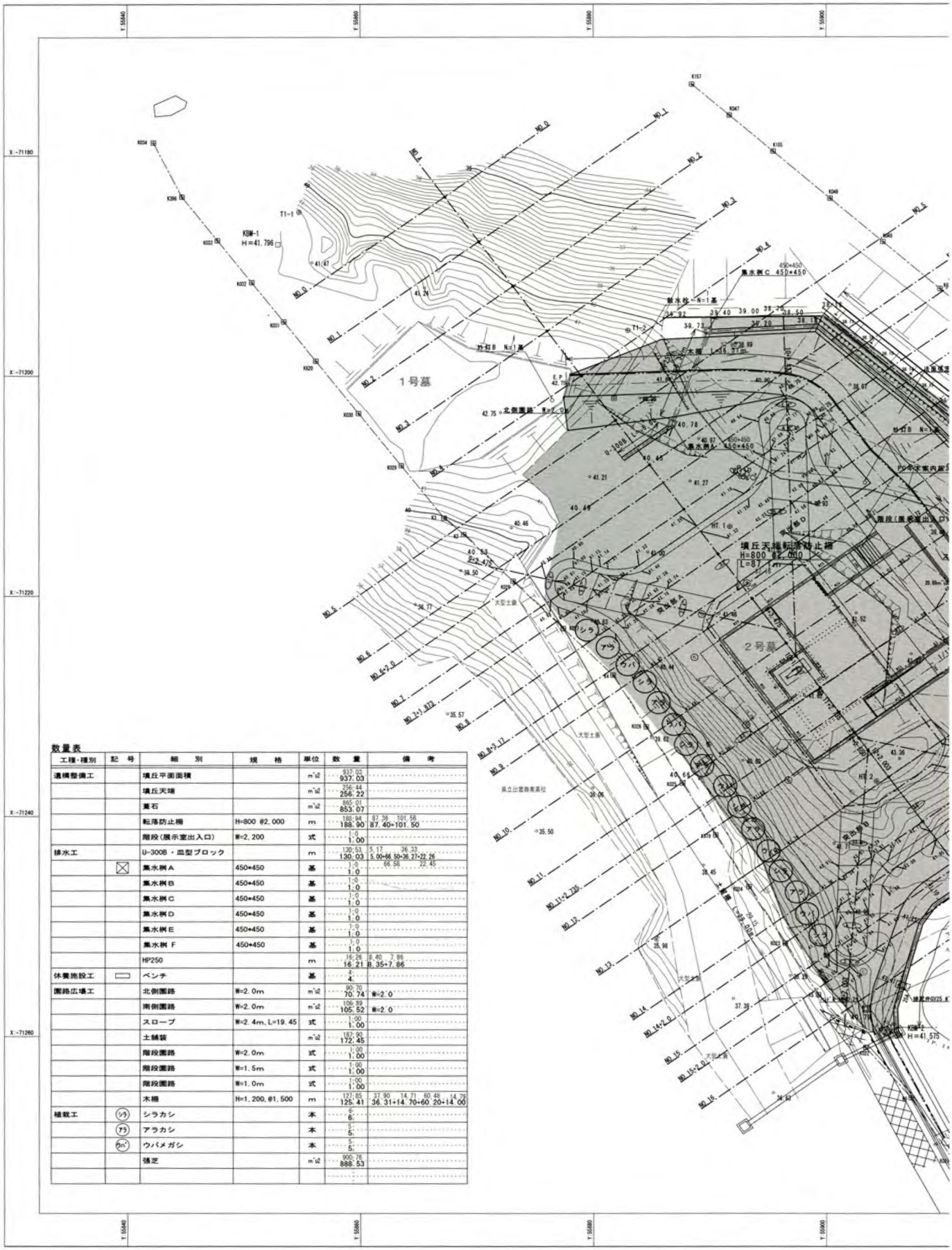


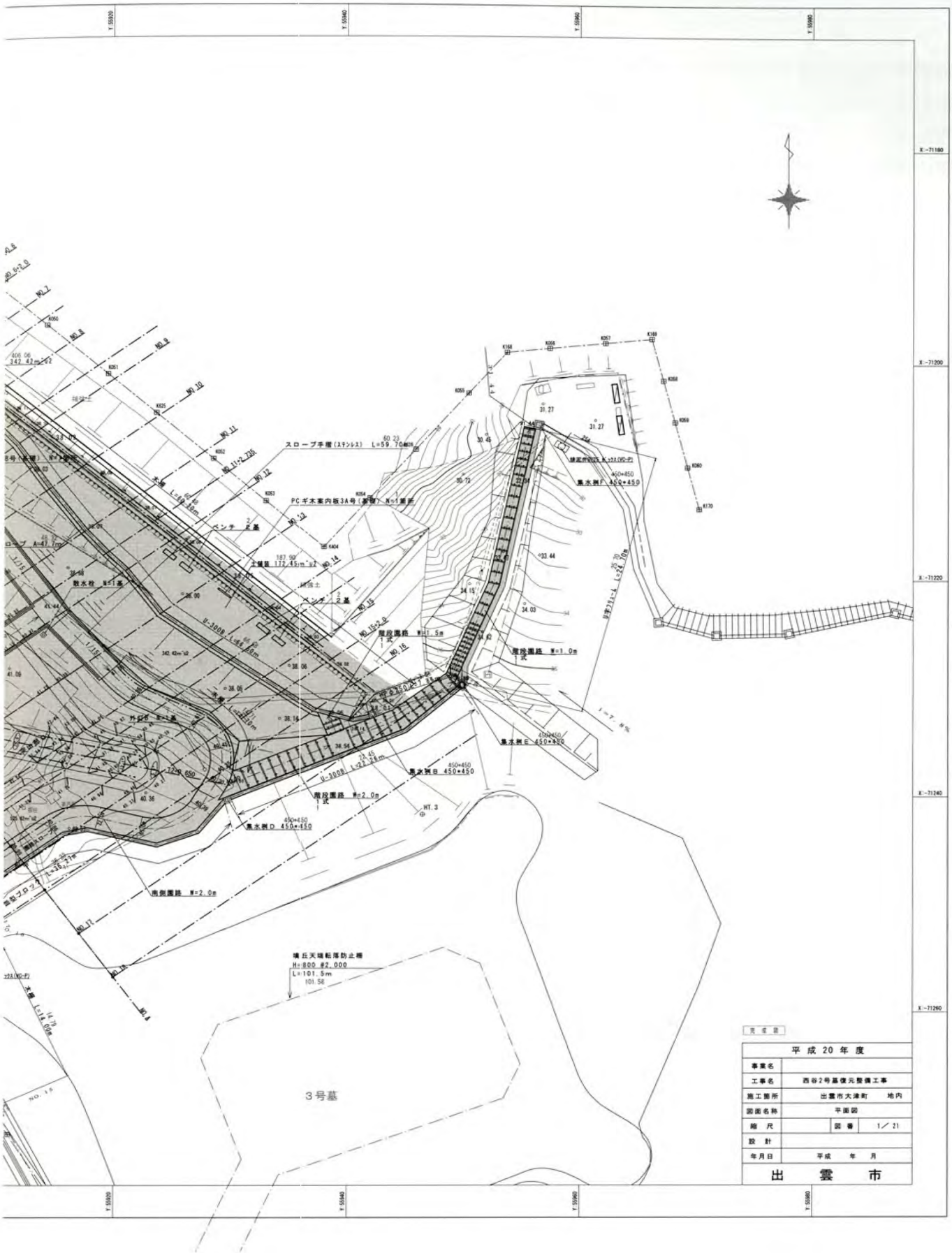

図７　２号墓展示室平面図（1/150）




数量表

| 工種・種別 | 記号 | 細別 | 規格 | 単位 | 数量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 造構整備工 | | 墳丘平面面積 | | ㎡ | 937.03<br>937.03 | |
| | | 墳丘天端 | | ㎡ | 256.44<br>256.22 | |
| | | 葺石 | | ㎡ | 855.01<br>853.07 | |
| | | 転落防止柵 | H=800 φ2,000 | m | 188.94<br>188.90 | 87.36 101.58<br>87.40+101.50 |
| | | 階段(展示室出入口) | W=2,200 | 式 | 1.0<br>1.00 | |
| 排水工 | | U-300B・蓋型ブロック | | m | 130.53<br>130.03 | 5.17 36.33<br>5.00+66.50+36.21+22.26 |
| | ☒ | 集水桝A | 450×450 | 基 | 1.0<br>1.0 | 66.56 22.45 |
| | | 集水桝B | 450×450 | 基 | 1.0<br>1.0 | |
| | | 集水桝C | 450×450 | 基 | 1.0<br>1.0 | |
| | | 集水桝D | 450×450 | 基 | 1.0<br>1.0 | |
| | | 集水桝E | 450×450 | 基 | 1.0<br>1.0 | |
| | | 集水桝F | 450×450 | 基 | 1.0<br>1.0 | |
| | | HP250 | | m | 16.26<br>16.21 | 8.46 7.86<br>8.35+7.86 |
| 休養施設工 | ▭ | ベンチ | | 基 | 4.<br>4. | |
| 園路広場工 | | 北側園路 | W=2.0m | ㎡ | 90.70<br>70.74 | W=2.0 |
| | | 南側園路 | W=2.0m | ㎡ | 109.89<br>105.52 | W=2.0 |
| | | スロープ | W=2.4m, L=19.45 | 式 | 1.00<br>1.00 | |
| | | 土舗装 | | ㎡ | 193.98<br>172.45 | |
| | | 階段園路 | W=2.0m | 式 | 1.00<br>1.00 | |
| | | 階段園路 | W=1.5m | 式 | 1.00<br>1.00 | |
| | | 階段園路 | W=1.0m | 式 | 1.00<br>1.00 | |
| | | 木柵 | H=1,200, φ1,500 | m | 127.85<br>125.41 | 37.90 14.71 60.48 14.76<br>36.31+14.70+60.20+14.00 |
| 植栽工 | シラ | シラカシ | | 本 | 6.<br>6. | |
| | アラ | アラカシ | | 本 | 5.<br>5. | |
| | ウバ | ウバメガシ | | 本 | 5.<br>5. | |
| | | 張芝 | | ㎡ | 900.76<br>888.53 | |
| | | | | | | |

**図8　2号墓復元・周辺整備平面図（1/500）**


スロープ平面（ステンレス） L=59.70m
PCギヤ本案内板3A号（参考） N=1基所
ベンチ 2基
ベンチ 2基
土留壁 172.45m²×2
散水栓 N=1基
階段園路 W=1.5m
階段園路 W=1.0m
階段園路 W=2.0m
南側園路 W=2.0m
集水桝B 450×450
集水桝C 450×450
集水桝D 450×450
集水桝F 450×450
U-300B L=46.80m
U-300B L=22.28m
擁壁 L=36.27m
擁壁 L=14.00m
境丘天端転落防止柵
H=800 #2.000
L=101.5m
3号墓
平成20年度
事業名
工事名 西谷2号墓復元整備工事
施工箇所 出雲市大津町 地内
図面名称 平面図
縮尺 1／21
設計
年月日 平成 年 月
出雲市

設園路沿いの240m にわたり，電気ケーブルの埋設を行った。この際，深さ30cm，幅30cm の掘削を行ったが，公園造成土の掘削にとどまり，地山掘削には至らなかった。

西谷２号墓展示工事では，２号墓内部の展示を行った。工事の内容は，先の「3.墳丘の復元⑨埋葬施設」で述べた土層断面パネル，発掘状況模型，埋葬人物模型のほか，解説グラフィック，ハンズオン装置の製作・設置を行った。

解説グラフィックは計７枚設置した。これらは土層断面パネルや埋葬人物模型の解説パネルのほか，２号墓と３号墓の発掘状況紹介パネル，西谷墳墓群の歴史を解説する年表などの内容としている。

ハンズオンは見学室の南東隅に取り付けた。子どもたちの興味を引くように，ハンドルを回すと電動で８枚の解説パネルが順次スライドして表示される仕掛けとした。

解説テーマは『「西谷の丘」いま・むかし』とし，西谷墳墓群が築造された丘陵である「西谷の丘」とその周辺の歴史について，分かりやすく学べる内容とした。

## 5. おわりに

以上，２号墓の復元整備について述べたのであるが，整備復元図の作成では委員会の委員長であった島根大学名誉教授の渡辺貞幸氏にご教示を頂き，当時出雲市文化財課内あった出雲弥生博物館創設準備室（花谷・清水・須賀・高橋・三原）でも検討を重ねて進めたことを申し添えておく。

また，委員会の委員の方々，指導機関の文化庁，島根県教育庁文化財課にご理解・ご了承を頂いたことで，墳丘内部に展示室を設けて，全体を盛土で覆い築造当時の２号墓を復元するというユニークで思い切った整備が行えた。

このおかげで墳丘保護という目的を達成しつつも見学者の関心を引く２号墓が再生でき，このことが史跡公園でも最も奥まった場所にある２号墓への誘客に繋がっており，ありがたい限りである。整備に関わった者として，一人でも多くの方に現場に足を運んで頂き，２号墓の壮大な姿を体感して頂ければ幸いである。

### 註

[1] 実施設計は株式会社空間文化開発機構（大阪市）に委託した。

[2] 復元整備工事は出雲土建株式会社（出雲市）に発注した。

[3] 西谷３号墓の埋葬主体の配置状況及び弥生時代後期後葉～末にかけては墳丘長軸に直交して埋葬施設を配置する例が主流とする研究成果（池淵2007）を参考にした。

[4] 展示工事は株式会社丹青社（東京都）に発注した。

### 参考文献


池淵俊一　2007「山陰における方形区画墓の埋葬論理と集団関係」『四隅突出型墳丘墓と弥生墓制の研究』島根県古代文化センター・島根県埋蔵文化財調査センター

坂本豊治ほか　2006『西谷墳墓群－平成14年～16年度発掘調査報告書－』出雲市教育委員会

坂本豊治　2011「山陰における弥生後期の墓制－特に四隅突出型墳丘墓を中心に－」『弥生墓が語る吉備』考古学研究会岡山例会第16回シンポジウム資料，考古学研究会

西尾克己ほか　1980『古代の出雲を考える２　西谷墳墓群』出雲考古学研究会

藤永照隆　2000『西谷墳墓群－平成10年度発掘調査報告書－』出雲市教育委員会

三原一将ほか　2011『出雲市の文化財報告19　史跡西谷墳墓群整備事業報告書』出雲市ほか

渡辺貞幸ほか　1992「西谷墳墓群の調査（Ⅰ）」『山陰地方における弥生墳丘墓の研究』島根大学考古学研究室